

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700089		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家高雄(1F)		
所在地	〒616-8262 京都市右京区梅ヶ畑向ノ地町10		
自己評価作成日	平成26年11月15日	評価結果市町村受理日	平成27年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanji=true&JigyosyoCd=2690700089-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の風景が楽しめる自然の豊かさを背景に、地域のボランティアさんの協力で家庭菜園の畑も整地され、庭やホーム周辺の散歩を楽しんでいます。ホーム内では自立支援の観点を重視しながら、安全・安心のケアに取り組んでいます。特に今年は外出(主にドライブ)の機会を増やし、便りの発行も実現でき、ご家族に行事やレクリエーションの報告をすることで、ご家族からも好評を得ています。また、食事作りも職員が工夫を凝らし、行事などには季節感あふれる食事を提供しています。医療面では契約医療機関による居宅療養管理指導、同一法人グループの訪問看護との医療連携により、利用者様の日頃の健康管理、急変時にも対応できる体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは四季の風景を楽しめる環境にあり、利用者の「自分で出来る」との思いや笑顔を大切に理念に基づいた支援に取り組み、安心できる暮らしとなるようケアの中に活かしています。地域との関係作りは、日々の近隣への散歩や買い物継続し、祭りや運動会等に参加する事で、顔馴染みになれるように努めています。ホーム主催の認知症サポーター養成講座を開催し、家族と地域の人々の参加を募り、ホームとの関わりを深めていけるよう取り組み、運営推進会議では家族から行事を手伝いたいとの申し出があり、家族との良好な関係作りにも取り組んでいます。職員間は「ありがとう・ほめカード」を活用し互いの良い所を褒めコミュニケーションとモチベーションの維持を図り、利用者の暮らしを支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを踏まえた理念を玄関入口に掲示し、目に付くようにして共有できるように努めている	理念は一人ひとりの思いと尊厳を重視し、本人が「自分で出来る」との思いを大切に、日々の暮らしの中で一緒に支えたいとの思いを込め職員で作り上げています。笑顔で暮らせるよう、プラン作成時にも理念を念頭におき、本人にとって楽しみとなる事を考え計画の中に組み込んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当該学区の地域ケア会議に出席し、地域の代表の方との関係を築きながら、町内会員として祭りや地域の行には出来る限り参加するようにしている。	町内会に参加し、地域の運動会や祭りの見学、地藏盆に参加しています。日々の散歩では挨拶を交し、近隣に買い物に行くなど、顔馴染みになっています。庭の手入れは地域の人に継続して行ってもらい、利用者も一緒に行うこともあります。クリスマス会には歌のボランティアに来てもらい、町会を通じて近隣の方にも参加の連絡をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年7月に地域包括の協力で初めて認知症サポーター養成講座を開催したが、まだまだ地域への浸透が乏しく、今後も機会があれば継続していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、ホームの利用状況、活動内容などを報告するとともに、参加された家族や地域の代表、包括センターの方から意見やアドバイスを受け、サービス向上に努めている。	会議は2か月に1度、利用者、家族、町内会長、地域包括センター職員、民生委員の参加の下開催しています。状況報告や行事予定を伝え、参加者より事故やヒヤリハットの報告を行うことへのアドバイスを受け改善したり、家族から行事の協力への申し出がありクリスマス会に協力を得るなど意見を活かしたサービスを行っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市(区)が主催する事業所連絡会、ケアマネ連絡会に出席し、情報交換を行っているほか、必要事項の連絡や届け出はしているが、常日頃の密にした協力関係の構築は今後の課題	運営推進会議録を区に持参し、事業所の状況を報告しています。区の事業所連絡会やケアマネ連絡会に出席し、新年会に参加し交流を図る予定です。区からの研修会には希望する職員が参加をしています。また、解からない事がある時は電話で問い合わせアドバイスを受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などを通じて、身体拘束の内容や要件などを学習し、実践につなげているが、安全面を考慮し、出入り口はテンキーによるオートロックで利用者が自由に出入りできる状態にはなっていない。	管理者が法人研修に参加し伝達研修をしています。新人職員にはその都度身体拘束に繋がる事柄を理解できるように指導しています。施錠は安全に配慮をし家族に了解を得た上でロックをしています。会議や日々の申し送り時に施錠を行うことの弊害についても伝え、言葉の制止や接遇についても話し合っています。外出の希望時は一緒に出掛けたり、庭で気分転換をしてもらっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するマニュアルや研修を通じて、虐待が発生する背景などについて話し合う機会を設けている。		

グループホームたのしい家高雄(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料やマニュアルは用意しているが、具体的な事例などについて話し合う機会はあまりない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、重要事項と契約書、個人情報保護に関する内容について懇切丁寧に説明し、理解を得るとともに、何らかの変更があればその都度納得が得られるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族などからの意見や苦情については、直接または意見箱を通じて受け付け、その都度適切に処理し、サービス向上につなげるようにしている。	家族の面会時に職員が声を掛け、意見や要望を聞くようにしたり、法人によるアンケートを実施しています。運営推進委員会の中で行事への参加や手伝いの申し出を貰い、クリスマス会に寿司と一緒に料理する企画を予定しています。玄関には意見箱が設置されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度フロア会議と全体会議を開き、業務や利用者との接遇などに対して意見交換の場を設け、常に改善に向けた話し合いを行っている。	職員は全体会議やフロア会議で意見を出し合い、参加が出来ない職員は事前に意見を求め議事録で確認しています。職員は常にフロアリーダーや管理者に意見を出しており、食事介助者が多くなり、業務の見直しや職員の体制や配置の検討を行っています。また連絡ノートからも意見を吸い上げ話し合っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、人事考課があり、職員個々の努力や実績を評価し、給与に反映しています。また、全社的に『ありがとう・ほめカード』というカードを使い、互いにモチベーションを保ち・高める環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員は本社で3日間の研修を受けてから現場に入り、業務に従事してからも定期的に内部研修が実施され、希望すれば施設外研修の参加も奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内にグループホームが全国にあり、同じ京都市内のホームとは様々な情報交換を通じて交流を図り、相互協力の下、行事や研修会の開催を応援している。		

グループホームたのしい家高雄(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人の希望や要望、不安などを傾聴し、必要であればホームに見学に来てもらい、なじめる関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に介護が困難な事情を把握し、その上で本人と家族の意向を照らし合わせながら支援の方法を探り、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接後に最優先される課題を把握し、当ホームで対応が可能かどうかを見極め、困難な場合は他のサービス利用も含めた最善の支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の観点から、本人の残存能力に応じて、一緒に家事やレクリエーションなどに参加できるように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には事あるごとに連絡し、本人の状況を伝えている。また、運営推進会議や様々な行事を通じて家族と本人、家族同士の交流を計っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族から行きつけの店や馴染みの場所を聞き、外出の際に機会があれば訪れるようにしている。	友人や遠方からの親戚が訪ねて来られた時は部屋でゆっくりと過ごしてもらい、職員が話を取り持つこともあり、馴染みの人との関係を継続できるようにしています。また、家族や親せきとの関係が途切れないように、法事や結婚式に行かれる時の身支度を支援し、手紙や便りの返事を返すことも支援しています。自宅の周辺の馴染みの場所への外出にも付き添えるように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たたみや食事の準備など、家事やレクリエーションなどの共同作業を通じて利用者同士のコミュニケーション作りを援助している。		

グループホームたのしい家高雄(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、必要に応じて柔軟な対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が可能な限り本人の意向や思いを大切に、困難な場合は家族などからも情報を集め、本人の思いを考慮しながら、心地よく暮らせる支援を検討している。	入居時に本人や家族から思いや希望、生活歴などを聞き意向の把握に繋げたり、介護計画の見直し時や状態の変更時にも意向を聞き取っています。把握が困難な場合には家族の面会時に聞いたり、日常の表情や言葉から、思いを汲み取りケース記録に記載をし、ミーティングや会議で本人の思いについて話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時のアセスメントにおいて、可能な限り本人から生活歴や今の暮らしの状況を聞き、不足な部分は家族などから情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	面接時に家庭での過ごし方、利用している在宅サービスの職員などからも情報を集め、心身状態や残存能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を最優先に考え、3か月ごとにモニタリングを行い、ホームでの生活の様子、家族の意向、担当医師からの指示や意見などを踏まえて介護計画を作成している。	本人や家族の意向の下面談時の情報や日常生活、趣味などを加味した暫定プランを作成し早期に見直しています。担当者が毎月モニタリングを行い3ヶ月後に評価し、見直しの必要がない場合は6ヶ月後に更新しています。見直し前には再アセスメントを行いサービス担当者会議では日々の中で困っている事や意向など聞き取った内容を踏まえ現状に合った介護計画となるよう話し合っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた日々の実践と様子を記録し、経過や新たな気づきを3ヶ月に1度のモニタリングで話し合い、介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	契約による往診、訪問歯科、訪問看護のほか、訪問理美容、訪問マッサージなど利用者が希望するサービスに出来る限り対応している。		

グループホームたのしい家高雄(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に家庭菜園作りにご協力いただき、畑が整地され、入居者も庭の散策を楽しめるようになり、今後も地域のボランティアや福祉サービスとのつながりを見つけていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約している提携医(内科・精神科)により、月2回の往診、24時間体制の医療連携、看護師の指示・アドバイスが受けられる体制にあるが、希望すれば、在宅からのかかりつけ医師を継続することもできる。	入居時に今までのかかりつけ医を継続できる事と、協力医についても説明しています。協力医は月2回の往診と24時間連絡が可能な体制となっています。かかりつけ医への受診は家族の同行を基本とし、緊急時や身体状況の説明が必要な場合は職員が同行しています。歯科往診は週1回、必要な方が受け、専門医へは協力医から情報提供があり連携を図れるようにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ法人内の訪問看護事業との医療連携に基づき、週1回の訪問以外に、24時間連絡が取れる体制にあり、必要に応じて相談や助言、指示を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーなどで利用者の状態やホームでの生活の様子を伝え、入院中も見舞いを兼ねて訪問し、病院側から経過説明、退院の目途、退院後の対応などについて情報を得るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」について説明し、同意を頂き、家族が希望すれば、担当医師らと相談、協力し、看取りケアを実施していく体制にある。	終末期の指針については、契約時に本人と家族に説明をしています。重度となり経口摂取が困難な時や常時医療が必要となる場合は医療機関へ紹介をしています。終末期にホームでの生活を希望される場合は、医師が家族に都度説明を行い、意向を再度確認の上、何度も話し合いながら看取りの支援を行っています。職員は看護師からの指導を受け、研修など学ぶ機会を持ち本人が安楽に過ごせるよう支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づき、不定期ながら応急手当や救急搬送の手順などの訓練を行っているが、全職員には浸透できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防・避難訓練は実施しているが、地域の協力を得るまでには至っておらず、地震や水害などの避難訓練も今後の課題である。	年に2回、消防署の指導の下、避難誘導や消火器と通報器の操作方法などを昼間と夜間を想定し行っています。運営推進会議や近隣には訓練を実施する事を伝えていきます。地域での防災訓練は町内会の回覧板で知り参加を予定すると共に防災グッズは職員に周知できる場所に設置しています。	

グループホームたのしい家高雄(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やマナーについては、常に注意を払い、その人の人格を尊重した言葉使いや態度で接し、着替えやトイレ誘導などの際も、プライバシーに十分注意している。	入社時研修や法人研修に管理者が参加し伝達研修を行い、職員に周知しています。日常では行動を否定しない事や傾聴することを重視しています。名前は苗字で呼ぶことを基本としトイレや浴室ではノックや声掛け、ドアを閉めることなどプライバシーや羞恥心に配慮しています。職員間で連携し利用者の安心と誇りが損なわれない言葉かけに努めています。不適切な対応が見られた時はフロアリーダーや管理者が注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員から強制的な指示や声かけをすることはなく、出来るだけ本人の自己決定を最優先し、自己決定が困難な利用者には、コミュニケーションを図りながら、納得できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの基本的なタイムスケジュールは設定しているが、その時の状態で起床時間や食事時間、入浴など、利用者jのペースに応じて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的な衣服選びはもちろん、外出時の衣服選びも本人の意向を尊重し、爪切りなども日頃から気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	運ばれてきた食材を利用者と一緒にチェックし、可能な限り調理や配膳・下膳、食器洗い、食器拭きを一緒に行い、食事介助が必要な利用者には本人のペースで安全に楽しく食事出来るように支援している。	日々は業者からの食材を使用し、週に1~2回は利用者の好みを聴き、焼きそばやカレー、寿司など、買い物にも一緒に行き、もやしの芽取り等利用者の負担にならない範囲で携わってもらっています。季節の食材や行事食、畑で収穫した野菜も食卓に上がり、レストランや回転寿司などの外食も取り入れ食事が楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分摂取量を記録し、何か変化があれば、医師との相談や指示に基づき、適切な食事形態(刻みやとろみなど)に変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	契約により週1回訪問歯科が来訪し、口腔ケアや診療を行っているほか、昼食・夕食前は職員が口腔ケア体操を日課として実施している。		

グループホームたのしい家高雄(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に基づき、利用者個々の排泄パターンやタイミングの把握に努め、トイレで排泄できるように声掛け、案内している。夜間も声掛けで案内可能な利用者はトイレでの排泄できるよう支援している。	排泄のチェック表を参考に、本人の動作やサインを見逃さないよう声かけや誘導を行い、日中は全員がトイレでの排泄が行えるように支援をしています。夜間はオムツやポータブルトイレを使用する方がおり、個々に合わせて睡眠にも配慮し支援しています。排泄用品についてはミーティングにて随時話し合い、本人の身体に合った排泄用品の検討を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動などにより、出来るだけ自然排便を促すようにしているが、慢性的に便秘の利用者は、医師との相談の上、緩下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	少なくとも週2回の入浴の機会を維持し、本人の希望や必要(便失禁など)に応じて入浴やシャワー浴の機会を設けている。	入浴は週に2回を目途に、一人ずつ湯を入れ替え湯温も好みに合わせ、冬場は重度の方も全員が湯船に入り、体を温められるように支援しています。本人から多く入りたいとの希望があれば臨機応変に対応しています。入浴を拒む方には、声かけの工夫やタイミングをみたり、職員の交代等を行い入浴ができるように取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はおおむね2時間おきに巡回し、就寝の様子とともに、室温や照明などを確認し、その都度安眠状態を保てるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療との連携の下、服薬に関する指示(変更や追加など)も、その都度申し送り、周知徹底を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や掃除などの家事のほか、家庭菜園など、利用者が得意とする部分をホームでの役割として参加してもらい、趣味を生かしたレクリエーションなども取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換に玄関先に出たり、家庭菜園周辺や近隣の散歩には随時でかけているが、それ以外にも花見や紅葉ドライブ、外食など、積極的に外出の機会を設けている。	気候が良い時には少人数で散歩や近隣のコンビニに買い物に出掛けたり、畑や庭で気分転換を図ってもらっています。北野天神や嵐山など郊外にドライブに出掛け、重度の方も一緒に外出できるよう支援したり、動物園には家族にも同行して貰い、外出を支援しています。通院の帰りに観光地に立ち寄り等個々の時々要望に応じて楽しんでもらっています。	

グループホームたのしい家高雄(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお小遣いを預かり、ホームで管理し、欲しいものがあれば買い物に同行しているが、家族の了解があれば、本人に金銭管理を任せ、買い物に同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や関係者とはいつでも電話を受けられる体制にあり、利用者から希望があれば家族の了解を得て、随時電話連絡やハガキなどのやり取りが出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分については、照明や音量、香りなどに十分配慮し、玄関には季節に応じた草花をいけたりして季節感を演出している。	フロアからは庭の草木を見ながら季節を楽しむことが出来、気候が良い時はテラスでお茶を飲んだり外気浴をしています。リビングにはツリーを飾りクリスマスの演出を行ったり、席の配置も気持ち良く過ごしてもらえるように意向に沿っています。日々の掃除は利用者とする時もあり、温湿度計を設置し管理したり、カーテンで日差しの調節をする等、快適に過ごせる工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間兼食堂には食卓のほかにソファを設置し、疲れた時に横になれたり、くつろげるスペースを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には可能な限り自宅で使い慣れた家具や寝具を持参してもらい、落ち着ける環境の中で暮らせるように工夫している。	入居面談時に、自宅を訪問した際は部屋の様子を見せてもらい、大切な物や手放せない物を持参し、暮らしが継続できるように話しています。寝具はベットか布団を選らんで貰い、今までの習慣に合わせて、生活しやすいよう配置しています。好みのカーテンや筆筒を置いたり、家族の写真が飾られています。また加湿器を置き、過ごしやすいよう温湿度の調整をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室は分かりやすく表示し、居室も必要に応じて目印になるリボンなどを飾り、利用者が理解できるように工夫している。		